

自己評価報告書

平成 22 年 4 月 27 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20510225

研究課題名(和文) イスラーム復興を射程に入れた公共圏概念の研究：トルコの女性復興運動を事例として

研究課題名(英文) Taking Islamism into the conception of the public sphere: Focusing on women's Islamic movements in Turkey

研究代表者

澤江 史子 (SAWAE FUMIKO)

東北大学・大学院国際文化研究科・准教授

研究者番号：70436666

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：公共圏、イスラーム復興、トルコ、女性

1. 研究計画の概要

本研究は、ムスリム社会において公共圏がどのようなものとして現れ、機能しているのか、さらには多様性を包摂するような民主政治や市民社会の成熟の条件とみなされている公共圏にイスラーム復興はどのような意味合いを有しているのかについて、理論と実証研究の両面で検討するものである。

これまでの公共圏研究ではあまり宗教という要素を組み込んだ研究は行われていない。しかし、宗教は規範を形成したり社会を束縛する力とともに、権力を批判する力も有しており、公共圏において重要な役割を果たしている。本研究ではこの両面を織り込んだ概念構築を目的としている。

2. 研究の進捗状況

研究の進め方としては、公共圏自体を直接的に論じる先行研究だけでなく、公論形成に直接・間接的に関連する諸側面を論じた研究にも着想を得ながら、トルコの具体的事例の分析に応用していくことで、公共圏に関わる理論や概念の再検討を進めるという手法を採用した。具体的には、以下のような論点に焦点を当てながら、研究をすすめ、成果を発表してきた。

(1) 1～2年目は、公共圏を規定する条件の一つとしてイデオロギー的条件に焦点を当てた。トルコの政教関係をめぐる議論で主要争点であるスカーフ問題やイスラーム政党を事例とし、国家レベルの政教関係、特に、体制構造(世俗主義的立憲体制)とそれをめぐる政治社会勢力間の権力関係を検討する論文発表と学会報告を行った。

また、理念的公共圏論が理想化してきた合理的で多様性に開かれた公衆グループ関係の実現を阻む要因も考察した。具体的にはイスラーム復興勢力側が何故、対立する勢力との間で信頼を醸成できないのかを、L.バーリンの自由論に着想を得て、共和主義、リベラリズム、イスラームがそれぞれ有する自他関係へのアプローチの違いに注目しながら分析し、学会で報告した。

(2) 2年目から3年目にかけては、より広くジェンダーの問題をイスラーム的言説の枠内で批判的に超克しようと唱道活動をするNGOに焦点を当てた。NGOへの注目により、市民社会レベルでの公共圏の在り方、特に、世俗的公共圏とイスラーム的公共圏の関係を精査できる。さらに、イスラームとジェンダーの関わりがより直接的に焦点となることで、イスラーム的公共圏の中の多様性や対立、権力関係を世俗的公共圏との関係や(1)で取り上げた体制構造の観点も踏まえた分析が可能となる。研究成果は、国際ワークショップでの発表と論文刊行として行われた。

また、最終年度での研究予定を見通し、海外研究者を招致して国際ワークショップを開催し、国際ジェンダー公共圏とムスリム諸国のジェンダー政策の関係を比較検討した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進んでいる。その理由としては、3年目に公共圏を構造的に腑分けし、イスラームや世俗的イデオロギーの機能も視野に入れた論文を発表できたことがあげられ、最終年度により総合的な視点からとりまとめを行う段階に達したと判断できるからである。

4. 今後の研究の推進方策

これまででは主としてトルコ国内の公共圏の諸相を分析してきたが、最終年度は国際的な広がりを持つ公共圏も視野に入れて、より総合的な分析と概念化を目指したい。その際には、3年目に開催した国際ワークショップでの討論を踏まえるとともに、また、これまでの研究成果を現地での国際学会で発表することで、フィードバックを得てこれまでの分析結果を再検討する機会も持つ予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. 澤江史子、「トルコにおけるイスラーム的女性公共圏—首都女性プラットフォームを中心的事例として」、『アジア経済』、査読有り、Vol. LII-4、pp. 9-35、2011年

2. Fumiko SAWAE、“Dynamism of Gender Politics in Contemporary Muslim Societies” (巻頭特集紹介文)、*GEMC Journal*、査読有り、No. 4、pp. 6-7、2011年。

[学会発表] (計4件)

1. Fumiko SAWAE、(the coordinator and moderator of the workshop), The International Workshop “Dynamism of Gender Politics on Contemporary Muslim Societies”、2010年10月17日、東北大学

2. Kimitaka MATSUZATO and Fumiko SAWAE、“Rebuilding a Confessional State: Islamic Ecclesiology in Turkey, Russia, and China”、The Second International Symposium of Comparative Research on Major Regional Powers in Eurasia “Comparing the Politics of the Eurasian Regional Powers: China, Russia, India, and Turkey”、2009年12月13日、法政大学

3. Fumiko SAWAE、“Islamic Women’s Advocacy in Turkey: The Case of the Capital City Women’s Platform”、The International Workshop “Diversity of Islamic NGOs”、2009年10月11日、東洋大学

4. Fumiko SAWAE、“A Stalemate in Conflicts Relating to Laiklik and Islamic Movements in Turkey”、Winter International Symposium “The South Ossetian Conflict and Trans-border Politics in the Black Sea

Rim”、2009年3月6日、北海道大学

[図書] (計3件)

1. 澤江史子、ミネルヴァ書房、日本比較政治学会編『国際移動の比較政治学』(日本比較政治学会年報第11号)、2009、pp. 37-68

2. Fumiko SAWAE、The Toyo Bunko、Tsugitaka SATO ed., *Development of Parliamentalism in the Modern Islamic World*、2009、pp. 220-245

3. 澤江史子、明石書店、森孝一編『ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共存できるか—神教世界の現在』、2008、12-32 ページ